

“地域共生社会”を実現するためのチーム・コミュニケーション・スキームの重要性

八巻孝之[†]

IRYO Vol. 75 No. 3 (193-197) 2021

要旨

人は、同じ現象や物をみても同じように認識するとは限らない。みる人の背景にある知識や観察力によって、異なる認識をすることがおこりえる。そのため、異なる専門職が互いにわかり合うということは難しい。とくに、医療の現場は、専門職の集団が結集した場の最たるものであり、専門性の追求が進むほど職種間にコミュニケーション・ギャップが生じやすくなるため、そのギャップを埋め合うか共感・共調し得るように意識されたコミュニケーション・スキルを学ぶ必要性が生じる。互いにわかり合えないことを前提と考えれば、コミュニケーションを工夫し、新しい価値を創造しながら共感していくためにはどうしたらよいかを探らなければならない。

複合的な課題を抱える地域共生社会への対応が増える中、多職種協働で地域住民を支えるためには、多職種間で行うチーム・コミュニケーション・スキームを上手く進めていくことが重要である。そのためには同じ事実を共有認識し、どのような考えを根拠として、どのように行動すべきか、この3つの視点を見える化し、共感・共調し合う姿勢と連携のためのスキームを専門職らが育成していかなければならない。高齢になっても、認知症になっても、介護が必要な状態になっても、病気になっても、障害を持っても、できる限り住み慣れた地域で暮らしたいと思っている国民を支えるためには、多職種が協働して患者や利用者を満足させる医療・看護・介護・福祉・行政の新たなサービスを提供できるようなコミュニケーション・スキルが不可欠なのである。

キーワード コミュニケーション・ギャップ、地域共生社会、多職種協働、チーム・コミュニケーション・スキーム

はじめに

近年、医療・看護・介護・福祉の各分野において、専門職の高度化・複雑化、さらには地域包括ケアシステムの構築、地域共生社会の実現、多職種連携の

実践¹⁾といった新たな変化がおきている。複合型サービスに関わるさまざまな職種と協働する機会も増加しており、とくに医療システム、すなわち医療チームにおいては高度化と専門化が進み²⁾、一方で希薄になっているのが他職種との関係性である。こ

国立病院機構宮城病院 総合診療外科 †医師

著者連絡先：八巻孝之 国立病院機構宮城病院 総合診療外科 〒989-2202 宮城県亶理郡山元町高瀬字合戦原100

e-mail : yamaki821@gmail.com

(2020年6月23日受付、2020年12月11日受理)

The Importance of the Team Communication Scheme Required for Multi-professionals in the Fields of Medical, Nursing, and Welfare : Aiming for a Symbiotic Community

Takayuki Yamaki, NHO Miyagi Hospital

(Received Jun 23, 2020, Accepted Dec. 11, 2020)

Key Words : communication gap, symbiotic community, collaboration by multiple occupations, team communication scheme